



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校

発行日 令和元年11月1日

発行者 校長 芝田 智昭

No. 342 11月号

音楽のちから

副校長 高田 大

来る11月9日(土)は「音楽会」です。多くの保護者、ご親戚の皆様にお越しいただけることをお待ちしております。

私事ですが、自分自身も幼少の頃から合唱や吹奏楽をはじめ、様々な音楽に親しんできました。そのような経験から「音楽のちから」とも呼べるエネルギーがあることを感じています。

今回の音楽会に向けた練習や本番の光景からは、子どもたちの次のような気持ちの表れを垣間見ることができました。

- ♪ 自分のパートが奏でる音の役割が分かった時に感じる誇りや責任感
- ♪ 全員の音が合わさる「決め」のフレーズが揃った時の爽快感

個人練習の時点ですと、主旋律以外のパートの児童にとっては、自分が今何を演奏しているのかわからない、ということが決して珍しくありません。打楽器や低音楽器になると、同じフレーズを何回も繰り返すことがよくありますし、合唱で和音を作るパートはそれ自体ではメロディーになっていないことがほとんどです。そうした楽譜を繰り返し何回も練習するのは、子どもにとっては意外と大変なことです。

ところが、合奏や合唱の練習が始まると、自分の音が友達の音と重なったりかみ合ったりして、楽曲の全体像が見えてきます。すると演奏する子どもたちの「一体感」が自然と加速してきます。

指揮者や指導者が「聴きなさい」「合わせなさい」と言わなくても、自分たちでそれができるようになる、これこそが「音楽のちから」の一つだと思っています。

小学校の音楽会は平素の学習の発表の場であり、コンクールのように順位がつくことはありません。その代わり全員が一つの音楽に取り組み、オンリーワンの演奏を目指します。

本番まであとおよそ一週間、自分のパートをマスターした子どもたちは当日に向けて「一体感」をさらに高めていきます。

当日の演奏にご期待いただき、本番前には励ましの言葉を、終演後には大きな拍手をいただければ幸いです。そして「音楽のちから」を皆様とともに分かち合えればと思います。